



小野崎まさき県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

通年型集客への再整備を

老朽化目立つ連沼海浜公園

千葉県のインフラ整備に力を注いでいる小野崎正喜県議(山武市・山武郡選出、2期)は9月県議会で登壇し、一般質問に臨みました。開設から半世紀近くの年月が経過し、老朽化が目立つ連沼海浜公園について、小野崎県議は再整備の方向を質問。また、自らライフワークと定める成田空港関連では、成田財特法に基づく整備計画の変更について、県の方針とその進捗状況を聞きました。小野崎県議の質疑と県知事ら執行部の答弁を特集します。



一般質問に臨む小野崎正喜県議

9月定例県議会一般質問

小野崎議員 連沼海浜公園は、地域の観光拠点になっているが、開設して40年以上経つことから老朽化が進み、再整備が必要な状況になっている。
県は公園施設長寿命計画に基づき、千葉県レクリエーション都市開発株式会社とともに、公園の魅力向上に努めてもらっている。しかしながら、この海浜公園は、夏期にはプールがあることから大変な賑わいを見せている一方で、夏期以外は利用者が大幅に減少していることが問題になっており、通年型の集客を踏まえた再整備を期待している。そこでうかがうが、再整

備に向けた検討会議の設置目的と開催状況はどうか。
都市整備局長 連沼海浜公園は、昭和50年の開設から47年が経過し、施設そのものが古くなっており、民間活力の導入を活かした再整備を進めることとしています。そこで、県では、公園の将来像や、方向性を示した基本方針を策定するにあたり、魅力向上や周辺地域と一体となった活性化等について広く意見を聞くため、有識者や地元関係者等による会議を立ち上げ、検討を進めています。
本年7月には、公園の現状と課題などを議題とした

第1回の検討会議を開催し、委員からは、海辺が活かされていないことや、通年型の集客が課題であることなどについて意見をいただいた

県総合スポーツセンター 陸上競技場に 大型映像装置

小野崎議員 県総合スポーツセンター陸上競技場への大型映像装置設置事業について、今後どのように進めていくのか。
知事 大型映像装置は、競技のプログラムや参加選手のプロフィール、プレイ映像や結果速報など、大規模な競技大会の開催に必要な不可欠な情報を表示できる装置であり、県総合スポーツセンターでの早急な設置が必要と考えています。
設置に当たっては、日本陸上競技連盟が行う第1種陸上競技場としての基準に適合しているかの公認検定が、令和6年度に予定されていることから、その前に基本計画を策定する必要があるため、今回の9月補正

予算案に所要の経費を計上したところです。
今後は、競技団体などの意見を聞きながら、来年度中に基本計画を策定した上で、実施設計や設置工事に着手し、令和8年度の完成を目指して設置を進めてまいります。
要望 小野崎議員 競技団体などの意見を聞きながら基本計画を策定することだが、障がい者を支えている競技団体も含めていただき、利用者の様々なニーズにあつた大型映像装置の設置を要望する。
国内では、第一種公認を受けている陸上競技場のほとんどで電光掲示板が設置されていることから、早期の設置を要望する。

ところで。
小野崎議員 今後、Park PFI(公募設置管理制度)による民間活力の導入等、様々な手法を用いての再整備に向けた取り組みを期待している。
また、連沼海浜公園を囲む保安林指定区域や海岸保全区域、県立自然公園第3種特別地域部分の活用に向けた規制緩和への取り組み

●県政についてのご意見、ご要望をお寄せください

小野崎まさき 県事務所
 〒289-1516 山武市松尾町田越756-3
 TEL0479-80-8333 FAX0479-80-8388
 E-mail info@onozakimasaki.com

周辺道路整備などを含めた一体的な再整備に向け取り組んでもらうよう要望する。
小野崎議員 基本方針の策定に向けた今後の予定はどうか。
知事 現在、海の魅力を活かした公園の先進事例を調査するとともに、海を活用した再整備のコンセプト等について、アンケート調査を行っているところです。
今後は、検討会議において議論を重ねるとともに、パブリックコメントにより、幅広く県民の意見を聞き、年度内に基本方針の策定を行う予定です。

成田財特法に基づく整備計画変更

道路などの事業追加



議場の自席で県の施策に要望する小野崎県議

小野崎議員

「成田国際空港周辺整備のため」の国の財政上の特別措置に関する法律、いわゆる成田財特法について、

成田財特法に基づき、公共施設等の整備を行う際の補助率のかさ上げを受けるためには、総務大臣が決定する「成田国際空港周辺地域整備計画」に事業を位置付ける必要がある、

直近では平成31年3月に法期限が10年延長されたことを受けて、同年4月に計画が変更された。

その後、空港周辺の市町では空港の更なる機能強化を見据えたまちづくり計画の策定が進んだことから、前回の整備計画変更時には想定していなかった新たな事業を実施する必要性が生じている。

そこで、成田財特法に基づく整備計画の変更について、県の方針とその進捗はどのような状況か。

事業の速やかな進捗を

小野崎議員 成田財特についてだが、予定されている第3滑走路の供用開始まで7年を切った。答弁では、空港の機能強化が進んでいく中で新たに必要となる事業を追加したいとの

ことだが、空港の更なる機能強化に併せ、成田財特法の期限が延長されたわけだから、計画されている事業が期限内に完了できるように速やかな進捗と、進捗の管理を要望する。

成田活用協議会についての

答弁では、現在、それぞれの時期に対応した事業方針の検討が進められているとのことだった。事業方針が定まったら示して頂きたい。そして、県では、本県経済の活性化に向けて取り組んでいくとのことだが、延

る公共施設等の計画的な整備を促進しようとするものであり、今回の計画変更

後には、前回の計画変更で、後の計画変更が図られた農業の基盤整備事業や、空港の機能強化の検討が進んでいく中で新たに必要となる道路や下水道などの事業を追加したいと考えています。

計画に盛り込む具体的な事業について、関係市町と最終的な調整を行った上で、

計画変更案を国へ提出し、来年度から着実に事業が実現

「成田空港活用協議会」延長

ポストコロナなど検討

小野崎議員 成田空港活用協議会の延長が決定したことを踏まえ、県として今後どのように取り組んでいくのか。

長が決定したばかりなの

が正直漠然としている感がある。取り組みを早期に具体化し、進めるよう要望する。

また、自民党の代表質問にもあったが、「新しい成田空港」構想が先目示された。この「新しい成田空港」構想も事業方針に取り入れるようお願いしている。期待している。

期間の10年延長が決定されました。

現在、活用協議会では、この10年間をウィズコロナへの対応、ポストコロナへの対応、50万円となる成田空港の活用という3つのフェーズに分け、それぞれの時期に

北総中央用水利用で収量増加の実証実験

小野崎議員 北総中央用水の利用拡大に向け、選択と集中による効率的な整備が必要と思うが、県の考えはどうか。

農林水産部長 北総中央用水を利用することで、畑作農業の生産力の向上や、地下水からの水源転換による地盤沈下の抑制が図られることから、その利用拡大を進める必要があります。

このため、規模拡大に意欲のある若手農業者や、用水を多く必要とする大規模農家がいる地域において、重点的に事業を推進することとし、整備を行ってまいります。

都市計画道路見直し75路線

小野崎議員 千葉県内の都市計画道路整備についてうかがう。長期にわたる事業未着手の道路や、周辺環境の変化により必要性が低くなった道路については、随時見直しを図っていくべきと考えられるかどうか。

都市整備局長 これまで、将来の交通量や混雑度の推計等に基づき必要性を検証し、令和3年度末時点で14市75路線、98路線について、廃止や幅員等の変更手続きを行ったところ。

県といたしましては、引き続き、都市計画道路の見直しが適切に進むよう、市町村と連携しながら取り組んでまいります。

飯岡一宮線バイパス

早期の全面開通要望

小野崎議員 県道飯岡一宮線バイパスの山武市小松の進捗状況はどうか。

県土整備部長 県道飯岡一宮線の横芝光町から九十九里町までの間は、幅員が狭く歩道もないことから、順次、バイパス整備を進めており、現在、山武市小松において、木戸川を跨ぐ橋

梁を含む、延長0.9キロメートルの整備を進めています。

現在、用地取得率は約5割であり、今年度も引き続き用地取得と、用地取得に必要な物件調査を実施します。

小野崎議員 横芝光町、山武市、九十九里町の区間で事業を進めている飯岡一宮線バイパス

の早期の全面開通を強く要望する。二点目として、屋根地区の工事が完了し、供用開始となることから、バイパスの線形や路線状況等を鑑みると、県道成田松尾線までは飯岡一宮線バイパスを県道にすべきだと考えるので、検討されるよう要望する。

また、蓮沼海浜公園に接する約4キロメートル区間について、4車線化を強く要望する。

この実証試験で得られた成果を周辺地域へ広めること